むきばんだ花だより9月

2018. 9. 1

シロダモの果実(クスノキ科、シロダモ属)

イヌビワの果実(クワ科、イヌビワ属)

サネカズラの雄花(マツブサ科、サネカズラ属)

コブシの果実(モクレン科、モクレン属)

◎シロダモ(白梻)、クスノキ科、シロダモ属

○別名：シロタブ、ウラジロダモ、タマガラ、オキノミノキ、

常緑広葉 高木、雌雄異株、○分布：本州、四国、九州、南西諸島に生育し、葉は、クスノキ科の植物で良く見かけるように、3 行脈が目立ち、大型で長さ8～１８cm。裏面は灰白色(若葉や若枝には黄褐色の絹毛がありつややかであるが後に葉の表面や若枝は無毛になる)。樹高は18mにもなる。タブノキに似ているが、葉の裏が白いためシロタブと呼ばれ、それが転訛してシロダモになったそうです。クスノキの仲間で葉を千切るとクスノキ特有の香りがあり．乾燥させた葉は押し花やリースの材料として使われる。10～１１月葉腋に散形花序で黄褐色の小花を群生させ、実は赤く熟す迄に１年近くかかるので、花と実を同時に見る事が出来る木として宣伝されることも有ります。また、赤い実に観賞価値があるとして神社仏閣を中心に用いられるようになったと云われます。類似種に黄色な実が成る、「キミノシロダモ」があります。

(洞ノ原地区)

★撮影月日：30,9,1,　★撮影場所：妻木山地区

ヨウシュヤマゴボウの果実(ヤマゴボウ科、ヤマゴボウ属

コナラの果実(ブナ科、コナラ属)

ウラジロノキの果実(バラ科　ナナカマド属　アズキナシ亜属

◎ウラジロノキ、(裏白木,白梨樹)、バラ科、アズキナシ属

(同科のナナカマド属に含められることも有る)、落葉広葉高木、

○別名異名：アワダンゴ、ヤマナシ、ヤマスモモマメナシ、

○名前の由来：葉の裏面が白いことから。 ○分布:本州、四国、九州の山間に見られるナナカマドの仲間で、名前のとおり葉の裏が白く、その白さは日本産の木の中で最も際立っています。○性質はアズキナシに近く、５月頃に径1～1,5cmの白い花(複散房花序に多数つける)が咲き、10月頃に実が赤く熟します。枝は不規則に生じ樹形が乱れやすいので、庭木としての利用は少ないが，渋めの花や、実、葉の裏面の白さなどを観賞するために稀に庭木や盆栽に利用されています。

★撮影月日：30,9,1,　★撮影場所：妻木山地区、

ミツバアケビの果実(アケビ科、アケビ属)

ウメモドキの果実(モチノキ科　モチノキ属

ナナカマド(バラ科、ナナカマド属)

ムクノキの果実(アサ科、ムクノキ属

スダジイ(ブナ科、シイ属)

◎ウメモドキ(梅擬)、モチノキ科、モチノキ属、

落葉広葉低木、雌雄異株、○別名：ムメモドキ、ウメボトケ。○分布:日本原産、中国と日本の本州、四国、九州の落葉広葉樹林内に分布。熊本県阿蘇郡の旧阿蘇町の「町の木」であり、また山形県ではレッドリストの絶滅寸前、千葉県では危急種の指定を受けている種です。○名前の由来：枝や葉や実が梅に似ているため。モドキ(擬き)は「似て非なるもの」「匹敵するもの」と云う意味。○花言葉:明朗、知恵。～明るい意味合いの言葉で、誰に送っても喜ばれる花言葉です。樹高は2~3m葉は互生、長さ3~8cm幅1,5~3 cmの楕円形先端が尖り葉の縁に細かい鋸歯があります。葉裏には毛があります。淡紫色の小花を5月頃に咲かせ、径５mm程度の果実をびっしり付け9月頃から赤く熟し始めます。12月頃落葉しても枝に残っています。このため落葉後の赤い実が良く目立ちます。庭木、盆栽、生け花に使われますが、観賞の対象は花より果実です。

★撮影月日：39,9,1,　★撮影場所：妻木山地区

ヤマハギ(マメ科、ハギ属)

エノキの果実(ニレ科、エノキ属)

シナアグラギリの果実(トウダイグサ科　アグラギリ属

クズの花(マメ科、クズ属)

カクレミノの花「両性花」(ウコギ科、カクレミノ属)

◎アカメガシワ(赤芽柏)，トウダイグサ科，アカメガシワ属、

雌雄異株、落葉高木で、樹高5 ~10mにもなる。○別名：ヒサギ(久木)，ゴサイバ(五菜葉)，サイモリバ(菜盛葉)，○分布：本州(秋田県以南)，四国，九州，沖縄，中国，台湾，朝鮮，○名前の由来：カシワと同様葉に食物を乗せるのに使い、新葉が赤いことからの名前です。別名の「ヒサギ」は古名で「ヒサギ」のヒは「日」、「緋」の意味とされています。☆山野や崩壊地などの新しい空地に最初に生える先駆種の一つで、何所にでも生え食用，薬用となる有用樹のため、地方名を沢山持っています。新芽は赤くて美しいが、大きくなると本来の緑色になります。若い葉は天ぷら、木の芽は、茹でて和え物にすると美味です。葉や樹皮は胃のトランキライザー(緩和精神安定剤・抗不安薬)の薬効が有り一石二鳥です。乾燥樹皮は、胃潰瘍、胃酸過多、胆石症にも薬効が有り成分はイソクマリンと云われます。種子は、黒く偏円形で堅い。鳥類(オナガ、キジバト、ムクドリ等)の大好物です。

★撮影月日：30，9，1，　★撮影場所：妻木山地区、

アカメガシワの果実と種(トウダイグサ科、アカメガシワ属)

キンミズヒキの花と果実(バラ科、キンミズヒキ属)

◎キンミズヒキ(金水引)、バラ科、キンミズヒキ属

多年草、○分布：北方領土を含む北海道から九州サハリン、朝鮮、中国に分布し。低山、山地の道端や原野に普通に見られる。○別名：リュウゲソウ(龍牙草)、ヒッツキグサ、(ヒッツキ草)、「生薬」センカクソウ(仙鶴草)、

○名前の由来：ミズヒキは「水引」の意味で、夏に黄色の小花を細長く穂のように咲かせる姿から金色の水引に見立てこの名がついたと云います。○花言葉：感謝の気持ち・感謝の心。○ 草丈は30～90cm位に伸び全株に長毛が密生しています。葉は互生し、縁に鋸歯が有る羽状の複葉で表面には腺点(分泌腺)がある、大小不揃いの小葉からなっています。根元に付く葉は大きく、長い葉柄は縁がぎざぎざの托葉が有ります。花は茎の先端に細長い穂状の総状花序を出し、黄色の小さい5弁花を沢山つけます。花後にできる実は蒴果(熟すと裂け種を散布する果実)で、長さ3mmで沢山棘が有り動物などにくっついて散布される。○薬用植物で、夏から初秋の開花期に全草を掘り採り、水でよく洗い天日で乾燥します。これを「生薬名」の龍牙草(リュウゲソウ)又は，仙鶴草(センカクソウ)と云います。有効成分は、カテコールタンニン、クマリン、ルテオリンなどのフラボノイド性配糖体、揮発油、多糖体などで，止血剤とか抗菌、消炎、鎮痛、健胃下痢止にも応用されます。また疲労回復、筋肉の疲れを取るために入浴剤に利用されます。○食べれるんです：奉先の若芽や若葉を摘み、熱湯で茹でて水に晒してから、おひたしや和え物にしたり、
汁に身にして食べます。

★撮影月日：30，9，1，

★撮影場所：妻木山地区、

キンミズヒキの果実「ひっつきむし」

ハゼノキの果実(ウルシ科、ウルシ属)

アカトンボの休憩？

[番外編]～赤とんぼの話～ アカトンボ(赤蜻蛉)

分類：動物界、節足動物門、昆虫綱、トンボ(蜻蛉)目、
トンボ(不均翅)目、トンボ科、アカネ属。

○別名：赤卒(せきそつ)○秋の野原や稲穂の垂れた田んぼの上（もちろんむきばんだ公園も)を、アカトンボが沢山飛んでいますね。童謡に歌われ馴染みのアカトンボです，みんな同じように見えるトンボですが、実はアカトンボと云う名前の付いた種のトンボはいなくて色々な種類が混じって居るそうです。○アカトンボとは良く似たグループ(分類学的には「属」と云うグループ)に付けられた名前で、そのグループの名前も正しくは「アカネ属」と云います。最近では、これをアカトンボ属と呼ぼうと云う考えを持つ人もあるそうです。日本では、このアカネ属に属するトンボは21種類が記録されています。その内に北の方で見られものが3種類、晩秋に大陸から飛来すると考へられているものが3種類います。残りの15種類が、毎年兵庫県では見られるそうです。また、赤トンボは、体色の赤いトンボの総称、「赤卒・せきそつ」という事も有るそうです。

アカネ属のトンボにはアキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネ、マイコアカネ、等が有り、狭義には、秋に群をなして出現する「アキアカネ」をアカトンボと呼ぶことが多い様です。なお、専門知識なしではアキアカネと他のアカネ属のトンボを区別するのは難しいそうです。

◎赤トンボ、＝通常、トンボ科アカネ属(アカトンボ属)に属するトンボを総称して呼ぶが、狭義には秋に群をなして出現するアキアカネのみを指すこともある。～おわり～

どなたでも入会可能です

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第１土曜日午前９時３０分～正午
- 入会金　２０００円　　毎回資料代　３００円　　いつでも、
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」